



# 「当たり前」の日常が続く幸せ

学校へ行くこと、誰かと笑い合うこと、安心して眠れること。その日常は、決して当たり前ではありません。世界では今も、争いや不安の中で暮らす人々がいます。遠い国の出来事のように見えても、失われているのは確かに誰かの日常です。この夏、過去の記憶に学び、平和について、改めて考えてみませんか。

## 生き延びるための生活

終戦のとき、私は9歳で国民学校の3年生でした。

父が戦争で亡くなったと聞いたとき、実感はありませんでした。私の家族は、母と弟と2人の妹の5人となり、父親がいる同級生を見て「あの子にはお父ちゃんがいって羨ましいな」と思うことが何度もありました。

当時、服は継ぎはぎだらけのものを着ていましたね。破ければ自分たちで縫って穴を塞いでいました。その頃は新しいものが欲しくても買うことはできなかったし、「欲しい」と言えない雰囲気もありました。どの家も下の子は、兄や姉のおさがりを着ていましたね。

あの頃を振り返ったときに一番に思い出すのは、食べ物ことです。

## 怖かった記憶

怖かったです。それだけではお腹がいっぱいにならないので、今では考えられないと思いますが、川でドジョウを採ったり、カエルを焼いて食べたりしました。タンパク質となる肉は、飼っていた鶏や庭にいるスズメを捕まえて補っていました。たまに食卓に白いご飯が出たときは、うれしくてたまらなかつたことを今でも覚えています。

当時の記憶で怖かったことは空襲です。夜、



飛行機の音がして西の空を見上げると、焼夷弾がばらばらと落ちていくのを見ました。焼夷弾は花火のように見えるのですが、家屋も人も一瞬で火の海にしてしまいました。

終戦前の7月頃、友達と和田川

した。

その後、工場の中で負傷した人がいたと聞き、私たちの日常は死と隣り合わせであることを改めて実感しました。

戦争を知らない、だからこそ考え続ける

学校へ通い、友達と遊び、家族と食卓を囲む。そんな「当たり前」の日常を戦争は一瞬にして「無」に変えてしまいます。

現在を生きる人たちは戦争を知らない世代がほとんどですが、いつまでも人類一人一人が、平和について考え続けることが大切だと思います。

私は当時を体験した一人として、今後も語



問合せ

シティプロモーション課

☎ 0545(55)2700

FAX 0545(51)1456

E so-citypro@div.city.

fuji.shizuka.jp

## ●平和を祈りましょう

「戦没者の霊を慰め、

平和を祈念します」

同報無線放送の鐘の音とともに、戦没者・原爆死没者の慰霊と平和祈念のため、黙とうをささげましょう。

8月6日(木) 8時15分(広島平和記念日)

8月9日(日) 11時2分(長崎原爆の日)

8月15日(土) 12時(終戦記念日)



父は戦争に行っていたので、私たち家族は生きるために必死で食べ物を探していました。主食は麦かサツマイモ

でした。麦はお粥にして量を増やして、配給されていた塩を振って食



で水遊びをしていたときのことです。現在の今泉地区に、落下傘などを作っている工場がありました。その工場を目標にB29による機銃掃射が行われました。近くにいた私たちは驚きと恐怖に襲われ、とっさに「お母ちゃん！」と叫びながら逃げま

# 富士市遺族会

## 会長 本多 光雄さん(89)

り継いでいきたいと思えます。  
★国民学校：日本の初等教育と前期中等教育を担った学校（現在の小学校）  
★機銃掃射：航空機などが装備した機銃を使用し、目標を連射・速射により攻撃する方法

### ●富士市戦没者追悼

#### 平和祈念式

今年度から、様々な世代の人を思いを巡らせてもらうため、富士市民なら誰でも参加することができる式典へ変更します。  
とき／8月15日（土）  
ところ／ロゼシアター中ホール

#### 内容／

第一部：戦没者追悼式

11時50分開式（11時開場）

第二部：平和祈念式

第一部閉式後 13時開式（14時閉式予定）

・高校生による平和へのメッセージ

・中学生広島市派遣事業の参加者による発表

※申込みは不要です。参加を希望する人は、直接会場にお越しください。

※会場の定員を超えた場合は、入場できないことがあります。

※駐車場には限りがあります。

#### 問合せ／

福祉総務課

☎ 05445(5)2757

FAX 05445(5)2290

### 富士市の 平和推進の取組

ミニミニ原爆展などについては、暮らしのたより25ページをご覧ください。



▲詳しくはこちら